

平成 28 年 10 月 21 日
機関リポジトリ推進委員会
メタデータ検討タスクフォース

junii2 改訂の基本方針

機関リポジトリに登録されたコンテンツのメタデータは、日本国内においては junii2 を標準的仕様として、国立情報学研究所の学術機関リポジトリデータベース (IRDB) を介して広く流通してきた。昨今の学術情報流通の世界的な動向や周辺の技術的な変化に対応し、国際的なメタデータの相互運用性を確保し、日本の学術的成果の円滑な流通をはかるため、新たなメタデータスキーマの設計を行い、junii2 の改訂を行う。

(1) オープンサイエンス・オープンアクセス方針に対応したデータ要素の追加と整理

公的研究助成を受けた学術成果へのオープン化を促進し、論文だけでなく研究データも含めた公開と利用を志向するオープンサイエンスへの期待が高まっている。助成団体や大学としてのオープンアクセス方針を設定する機関も増加している。これを受けて、公的研究助成を中心にオープン化の達成度を把握するための要素と、研究データ等の対象コンテンツの拡大に対応するための要素の追加・整理を行う。

(2) 識別子の拡充にともなうメタデータ構造の修正

情報をより正確に識別・同定するためには、ある実体を他の実体と曖昧さなく区別するための識別子が付与されていることが重要である。論文・研究者・機関の情報を正確に扱うために、現在の junii2 のように情報をフラットに記述するのではなく、それぞれの情報をグルーピング（階層化）し、各実体に対して明確に識別子を付与できるようにする。

(3) 国際的に相互運用性の高いデータ交換のためのスキーマ定義

新スキーマにおいても、日本独自の要素名と語彙を採択するが、学術情報の流通性を高め、国際的なデータ連携に対応するために、海外の主要な連携先を参考にしたスキーマを定義する。かつ、OpenAIRE 等の主要連携先とのマッピングを提示する。

(4) 各機関リポジトリのデータ作成とデータ提供の方式の変更

各機関リポジトリでは、データ作成・提供の方式の変更が必要となる。システム改修等への影響を考慮し、junii2 との変更点を提示する。また、通信プロトコルは OAI-PMH を維持することで、影響を最小限に抑える。なお、当面は、junii2 でのハーベスティングも可能とする。

(5) 今後のスケジュール

- ・平成 28 年度：機関リポジトリ推進委員会での junii2 改訂案の確定
- ・平成 29 年度：IRDB への実装・新スキーマでのハーベスティングの開始

junii2 でのハーベスティング終了時期は、新スキーマの普及状況を勘案して決定する。